

「言いにくいテーマ」を、住民・大学・行政がともに語る場へ

【資料 8 - 1】

本ページの要点

「にしボイス」は、子育てや不登校といった行政が一方的に答えを出しにくい複雑なテーマを、住民・大学・行政が同じ土俵で語り合うための新しい回路として始まった。単なる意見募集ではなく、合意形成プロセスそのものを問い直す試みである。

01 「届かない声」を「届けられる声」へ

従来の住民説明会・パブコメでは、声の大きな層に意見が偏り、当事者の声が届きにくかった。デジタルで非同期に・匿名でも丁寧に拾える場をつくり、埋もれていた声を構造的に可視化する。

02 「広聴」から「熟議」へ深める

意見をただ集めるのではなく、AI分析で論点・対立軸・共通点を提示し、住民同士・住民と行政の認識を重ね合う対話を生み出す。多数決ではなく、緩やかに合意点を見出すプロセスを志向する。

03 「聞く行政」から「ともに考える社会」へ

行政が一方的に住民の声を「聞く」のではなく、大学・行政・住民が同じ土俵で語る場を設ける。区政会議という制度的代表と、広く住民から拾った声を接続する、新しいガバナンスの実験。

✦ 初手で「子育て・不登校」を選んだ意味

どちらも原因と対処の役割が一意に決まらず、当事者には切実な「複雑な合意形成テーマ」。あえてこの難所に踏み込んだことが、本取り組みの本質的な意義である。



「不登校」「子育て」の2テーマで109件を収集 — そこから何が見えたか

本ページの要点

「不登校」「子育て」の2テーマで合計109件の意見を集め、AI分析と3/9の共創フォーラムで読み解いた。そこから、「複雑なテーマでも、住民とともに認識を重ね、緩やかに合意を形成していける」という示唆が得られた。

① 取り組んだテーマと、設定した問い

学校に行きづらい子どもたちへ、今私たちができること

79件

- ・問い①：「不登校」の主な原因は何だと感じるか
- ・問い②：学校・行政・地域はどのように支援すべきか
- ・問い③：学校が家庭と子どもをサポートする上で改善してほしいこと

西区で育つ・育てる。みんなで話そう「子育て」のこと

30件

- ・西区における子育ての悩み・困りごとの共有
- ・地域の子育て資源と行政との連携について
- ・子育て世代の地域参画のあり方について

② 集まった結果と、AI分析・共創フォーラムでの読み解き

投稿の傾向

「不登校」では宿題量・学校環境・夜更かしなど生活実態に根ざした具体的要望が目立つ。「子育て」では地域資源・行政との接点への声が多い。

AI分析の所見

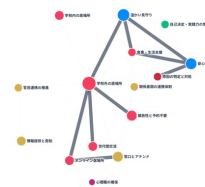
個別意見を論点・対立軸・共通点として整理。「原因」「対処の役割」「要望」の3軸で住民認識を構造化し、コンセンサス候補が浮上した。

フォーラムでの議論

3月9日に府・市・西区・住民・学生ら約40名が参加。「自助と公助の間の共助」「政策連携での持続可能性」が議論された。

● 居場所づくり	28件
学校外の居場所	12件
開放性と予約不要	4件
学校内の居場所	3件
オンライン居場所	3件
世代間交流	3件
食事・生活支援	2件
無償・経済的配慮	1件
● 支援の姿勢	15件
温かい見守り	7件
安心の優先	7件

居場所づくり	28件
支援の姿勢	15件
連携と情報共有	11件
個別対応と多様な学び	10件
保護者支援・参画	7件
専門人材と資源配分	5件
早期介入と原因対応	5件



③ ここから得られた示唆 — にしボイスが示している意味

「言いにくい話題」も住民は語る

匿名・非同期で投稿できる仕組みがあれば、子育てや不登校でも当事者の率直な声は集まる。

AIは「論点の地図」を描く道具

結論を出すのではなく、住民の認識を構造化し、対話の前提を整える役割を果たす。

「結論を急がない」合意形成

多数決ではなく、互いの認識・役割・要望を重ね合う緩やかなコンセンサスのかたち。

多様な主体が語り合える場の創出

府・市・住民・大学・学生が垣根を越えて議論する場として、共創PFが機能した。